

インテック

IT統制向けに、
アイデンティティ&アクセス管理ソリューションを強化

インテックとRSAセキュリティは、インテックが提供するアイデンティティ管理製品「MaXware Identity Center(MIC)」とRSAセキュリティのワンタイム・パスワード製品「RSA SecurID」を組み合わせたセキュリティソリューションの提供を4月より開始した。

IT統制の重要度が高まる中、企業はユーザ情報やアクセス権をより厳重に管理する必要に迫られている。MICは、システムごとに存在するユーザIDの一元的な統合管理を可能にする製品で、組織変更や人事異動などの情報を自動的に各システムに反映させることができる。両社は以前よりID管理とアクセス管理の分野で協業していたが、今回 MICとRSA SecurIDを直接連携したことで、ワンタイム・パスワードを使用するユーザについてもID管理が可能になり、従来のユーザID統合管理機能とWebアクセス管理機能に、本人認証機能を組み合わせたシステムの構築が可能となった。

ワンタイム・パスワード：一回しか使えない使い捨てパスワード
一分ごとに変化するパスワードを使用して本人認証を行う

お問い合わせ先：インテック ネットワーク事業推進部 TEL:(03)6665-5026

インテック

中小規模ユーザ向けのStandard Edition Liteを発売
快速サーチャー ログ検索ソリューション for LanScope Cat

インテックは、高速ログ検索システム「快速サーチャー ログ検索ソリューション for LanScope Cat」に、中小規模ユーザ向けの「Standard Edition Lite」を加え2月26日より販売を開始した。

この製品は、エムオーテックス社製のネットワークセキュリティ管理ソフト「LanScope Cat」で取得した大量のログを、暗号化した状態で長期に保存し、高速検索できる製品。これまで1000ユーザ規模以上のEnterprise Editionと、1000ユーザ未満のStandard Editionを提供してきたが、中小規模向けの製品をリリースしてほしいという要望に応えるため、200~300ユーザ向けの製品としてStandard版をベースとした「Standard Edition Lite」をリリースした。初年度は100セットの販売を見込む。

すでに「LanScope Cat」に合わせて調整済みのため、導入時に特別な作業は不要で、ログを取得するスケジュールを登録するだけで自動的にデータベースを作成することができる。

お問い合わせ先：ビジネスプロダクトソリューション事業部 TEL:(03)03-5665-5140

インテック・ネットコア

企業ネットワークの
これからの先取り
無料情報サイト
「エンタネ!」スタート

インテック・ネットコアは2月より、「EnterprisexNetwork」をテーマに企業ネットワークのこれからの先取りする情報サイト「エンタネ!」(<http://entne.jp/>)を開始した。IPv6やNGNといった最先端のネットワーク技術や内部統制などをビジネス上の視点から捉え、これからの企業活動のあり方や最適な情報化投資などに関する情報を発信している。「Windows Vistaを企業ネットワークに導入する際に考慮すべきセキュリティ対策」、「現実味を帯びてきたIPv4アドレス枯渇問題」などのテーマで、最新動向を提供していく。

また、記事を読むだけでは得られない新たな体験ができるよう、Windows Vistaなどに対応したハンズオンツールも公開。最新動向の紹介や先行事例の分析・解説を行い、企業ネットワークが抱えている問題に答えていく予定。

<http://entne.jp/>



インテック

上海にソフトウェア開発拠点
インテック武漢上海分公司、本格稼働

インテックは中国上海市で進めていたソフトウェア開発拠点の整備を完了し、ソフト技術者30名の体制で業務を開始した。現在、上海、武漢の両拠点で約100名の技術者が日本向けのソフト開発に従事しているが、本年中には150名超の開発体制になる予定である。

中国ビジネスの中心地である上海は、高度なスキルを身につけたIT人材が豊富であり、インテックは今回の中国拠点拡充によって、レベルの高いソフト技術者を中国で確保するとともに、中国に進出したお客さま企業向けに情報システムの現地化を行うなど、より広範なサービスを提供できる体制を整える。



4月13日、宮地秀明董事長(インテックHD副会長) 右から3人目、川浦正博副董事長(インテックシステム開発事業本部長) 右から2人目ほかが訪中し開所式を行った

また、上海分公司は中国における開発協力会社の調達部門としての機能も担う予定であり、ソフト開発の国際分業をさらに活発化させ、グループ全体としての開発パワーをより強化していく。

インテック武漢上海分公司
上海市徐匯区虹橋路3号港匯中心2座41階
TEL 86(21)6448-1188
FAX 86(21)6448-1189

インテック

事業所内託児所
「インテックキッズホーム」がスタート

子育て支援制度をさらに充実させるため、昨年5月よりインテックグループが建設を進めていた新ビル「インテックキッズビル」が1月に完成した。鉄骨4階建てで、延べ床面積は約900平方メートル。監視カメラによるモニタリングや赤外線センサーの設置など厳重なセキュリティを備えており、屋上には安全で衛生的な遊び場として、プールや砂場、温水シャワーなども設置している。

同ビルには事業所内託児所「インテックキッズホーム」を設置し、3月に開所した。定員は50名で事業所内託児所としては富山県内最大規模。インテックグループの福利厚生施設としてインテックが保有し、グループ社員が子育てをしながら安心して就業できる環境をさらに整備するとともに、富山駅北地区の企業で働く子育て中の就業者にも利用していただいている。経験豊かな保育士が保育にあたり、五感を使った生活や遊びなど心身の成長を促すような保育を目指している。



インテック

入社式 -
自ら付加価値を生み出し、
社会に還元せよ
グループ社員5800名に

インテックは4月2日、新入社員267名を迎えて富山市の本社ビル(タワー111)で入社式を行った。

辞令交付に続いて金岡克己社長が「社会人になることは、育てられ消費する立場から、生産し次世代を育てる立場に変化すること。その自覚をもち、自ら付加価値を生み出し社会に還元して欲しい」と式辞を述べた。

次に、インテックホールディングスの中尾哲雄会長が祝辞を述べ、「夢や希望をもつ人は輝いており、企業をも輝かせる。運命は自分で拓いていくもの、大空のような高い理想と広い心をもって進んでほしい」と語った。

先輩社員を代表し、北陸ソフトウェア工場第二システム部の加賀谷絵美さんが、仕事に対する責任感や人とのつながりの重要性について経験を元に語りかけ、新入社員を代表して山田麻依さんが「失敗を恐れず、チャンスを見つけ何事にも果敢に挑戦したい」と決意を述べた。

初めて新入社員を迎えた北国インテックサービスをはじめグループ各社が入社式を行い、4月1日付のグループ社員数は約5800名となった。



インテック

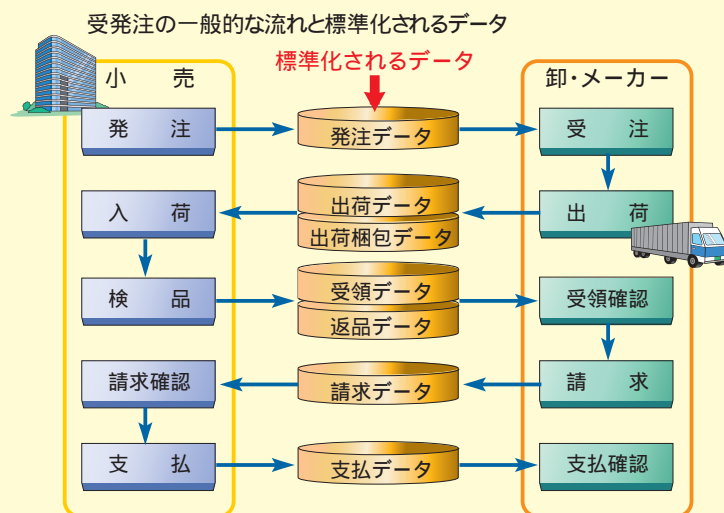
次世代標準EDI、実用段階に インテックが共同実証をサポート、新システムの開発も

経済産業省の外郭団体、流通システム開発センターは4月、イオン、ダイエー、平和堂、ユニーなどの共同実証を踏まえ、インターネットを活用した次世代標準EDI(電子データ交換)の標準仕様と運用ガイドラインを公開した。この共同実証と標準仕様策定はインテックが積極的に支援してきたもので、今回の公開により次世代EDIは実用化段階に入った。受発注から納品・決済までのサプライチェーンの効率化が期待されている。

これまで使われていたJCA手順は、データ形式が小売業者ごとに異なり、また漢字や画像データがやり取りできず伝送速度も遅いという問題点があった。このため新しい標準化案の検討が進められていたが、2月下旬からイオンなどの大手スーパー4社と卸29社が参加して新しい標準仕様の共同実証が行われ、その実効性を確認して今回実運用に移行したものである。共同実証にはインテックの次世代EDIシステムであるB-ixServ(ビックスサーバ)が使われた。

新しい標準仕様では、データ形式の統一に加え、ブロードバンド回線の使用によりこれまで2時間程度かかっていた受発注の通信時間が10分程度に短縮される。これにより店舗では発注の締め切りを遅らせることも可能になる。

食品スーパーが加盟する仕入れ機構CGCジャパンは、4月からこの次世代EDIの運用を始めている。システム開発はインテックが担当した。伝票レスによる作業効率の向上に加え、店舗での人員を減らす効果も期待されており、7月より一部取引先にて本格対応する予定である。



インテック

インターネットEDIに対応した ASPサービスを開始 「EDI-Hub」が標準規格 EDIINT AS2に準拠

インテックは、EDIのASPサービス「EDI-Hub」の新たな機能として、インターネットEDIの通信手順として国際標準になりつつあるEDIINT AS2に準拠した「AS2通信機能」を開発し、3月よりサービスを開始した。

「EDI-Hub」は、お客さま企業のEDIシステムをASPで運用するサービスで、これまでに100社以上で利用されている。ハードウェア・ソフトウェアをインテックが運用することにより、お客さまはメンテナンスやネットワーク構築など運用に関わる負荷を軽減することができる。

すでに「EDI-Hub」を利用されているお客さまは、「AS2通信機能」を追加するだけで、従来手順のEDI機能に加え、インターネットEDI機能が利用できるようになる。新たに導入するお客さまも、様々な通信手順を利用した安全なデータ交換をフルアウトソーシングで実現できる。

すでにライオン株式会社向けにサービスを提供しており、これによりライオン株式会社は日用品化粧品業界VAN運営会社「株式会社プラネット」との間で行うEDI業務のうち、通信量が最も多い販売データについてインターネットEDIへ切り替えを行った結果、通信時間を大幅に短縮することができた。

お問い合わせ先:
株式会社インテック B2B-ix事業部
TEL:(03)03-5665-5113

インテック

日本貨物航空 NCAコンピュータセンター開設 インテックがインフラ構築と運用を受託



インテックが構築を担当した、日本貨物航空(NCA)の「NCAコンピュータセンター」が完成し、3月12日に開所式が行われた。NCAは大型貨物専用機(9機:07年4月時点)を自社所有する、日本唯一の国際貨物専用航空会社である。これまでシステムの大半を全日空のコンピュータセンターに設置していたが、今回、独自のデータセンターを開設し同社の次期基幹システム(貨物、整備、運航システム)をはじめ、すべてのシステムを同センターに設置する。

今回の開設は、NCAが進める中長期経営計画「NCA Phoenix Project」の骨子である「NCAの自立化」の方針に基づき、事業インフラの強化を目指したものである。インテックはデータセンターの構築およびシステム基盤の構築を担当し、データセン



左端よりNCA大槻専務、内山社長(現副会長)、インテックHDの中尾会長、IBS社Chairman V.K.Mathew氏

ター、サーバ、ネットワークなどインフラ全般にわたるトータルなサポートを提供した。今後はシステムの運用を担当する。なお、同センターが設置された建物は、震度7級の地震にも耐える高い耐震性と厳重な入退出セキュリティ、安定性の高い電源などを備え、最高レベルの安全を確保している。

インテック

ウルシステムズとインテック 次世代XML-EDI サービス分野で業務提携

ウルシステムズとインテックは、流通業界向けの次世代XML-EDIサービス分野で業務提携した。流通業界の業務ノウハウに精通し、多様な業務フローを網羅した次世代XML-EDIソフトを保有するウルシステムズと、大規模EDIシステムの構築から運用、アウトソーシングまで一貫した総合的なサービスを提供するインテックが組むことで、お客さまのニーズに沿った先進的なサービスをトータルに提供する。

両社は共同で、大手GMS(量販店)、スーパーマーケット、卸・メーカーの流通三層全体を対象に、規模の大小を問わず次世代XML-EDIの事業を展開していくとともに、安全・安価で高速な次世代XML-EDIサービスの啓蒙と販売促進活動も実施していく。

なお、インテックホールディングスは上記業務提携をより強固にすることを目的としてウルシステムズとの資本提携も実施した。

UMLau(ウムラウト)J-XMLTM

インテック・ネットコア W&G

JGN IIにおける利用促進賞 (地域貢献優秀賞)を受賞

インテック・ネットコア(以下、ネットコア)とW&Gは1月、次世代高度ネットワーク推進会議幹事会より利用促進賞(地域貢献優秀賞)を受賞した。この賞はJGN²を利用する一般プロジェクト(135件)の中から、産学官地域の連携を推進、実験・研究のエリアが広範囲にわたるなどの要素を満たす20件に与えられた。

両社が参加した「地域間相互接続実験プロジェクトII」では、全国各地のネットワークをJGN2上で結び、全国横断型のコンテンツ交換を実現した。地域コンテンツの流通促進の一助となったほか、各地の人材育成にも貢献した。

なお、ネットコアの中川郁夫取締役CSOが主査として全体を取りまとめ、W&Gが事務局を務めた。

「IPv6移行ガイドライン」作成で感謝状

ネットコアは2月、IPv6普及・高度化推進協議会より、IPv6移行ワーキンググループ(WG)への貢献で感謝状を受けた。

同WGは、IPv6への移行導入に関する課題とその解決策を整理した「IPv6移行ガイドライン」を作成することを目的に2003年に発足したもので、荒野高志社長が主査を務めるなどネットコアは中心メンバーとして参画し、ガイドラインの作成に尽力した。

「IPv6移行ガイドライン」は英語化され、国内はもとより世界各国で利用されている。

1 インテック・ウェブ・アンド・ゲノム・インフォマティクス
2 独立行政法人情報通信研究機構が運用している超高速・高機能研究開発テストベトネットワーク